



平成28年度



こうちこどもファンド事業報告書



こ ち し
高知市



【目次】

1	平成28年度「こうちこどもファンド」事業スケジュール・・・	1
2	「こうちこどもファンド」の助成を決定する審査員・・・	3
3	こうちこどもファンド公開審査会	・・・ 5
4	助成団体の活動	・・・ 10
5	こうちこどもファンド 助成団体活動発表会	・・・ 13
6	高知市子どもまちづくり基金 平成28年度実績	・・・ 34
8	今後に向けて	・・・ 35

【資料編】

★高知市子どもまちづくり基金条例

★高知市子どもまちづくり基金助成金交付要綱

★平成28年度活動発表会アンケート結果

・一般来場者

・発表団体向け(対象:子ども)

・応募団体向け(対象:大人サポーター)

★「こどもファンド通信」第18号(平成28年5月発行)

★「こどもファンド通信」第19号(平成28年8月発行)

★「こどもファンド通信」第20号(平成28年11月発行)

★「こどもファンド通信」第21号(平成29年2月発行)

★平成29年度こうちこどもファンド助成事業募集チラシ

★第6期こども審査員募集チラシ



ごあいさつ

こどもたちが自ら、高知のまちについて関心を持つきっかけとなり、高知をもっと好きになってもらいたい、高知で生まれ育ったことを誇りに思うように育ってもらいたいという思いで始めた「こうちこどもファンド」ですが、市民の皆様のご協力や、企業・団体、個人の皆様からのご寄附など、様々なご支援をいただきながら5年目を迎え、平成28年度は応募いただきました7グループ全てに助成を行いました。

今年度も防災をはじめ、地域での挨拶運動や交流事業、ボランティアに関する新聞作成、スポーツや食を通じた国際交流など、こどもたちの自由な発想による活動が熱心に行われ報告を受けました。

近年、発生が予想される南海トラフ地震に備え、防災活動を盛り込んだ提案が多くなっていますが、こどもたちも自分の住んでいる地域の現状をよく勉強し、それぞれの活動に活かすことで、自分たちのまちをより住みよいまちにしたいという思いが伝わってまいります。

公開審査会で助成が決定してから約1年間の活動の中で、仲間たちといろいろな悩んだり議論を重ねたり、また、地域内外の方たちとの連携や交流など、普段の生活では味わえない様々な経験を積んできたと思います。活動発表会で報告する皆さんの姿を見て、活動を通して皆さんが確実に成長し、高知の将来を担う優秀な人材が育っているのを実感いたしました。

今後、こども達が高知市のまちづくりに積極的に関わってくるためには、この活動が、今回で終わりではなく、活動の継続や継承、また、新しいことに挑戦してみるなど、これからも積極的にまちづくり活動の輪を広げていただくことを期待しています。

最後になりますが、制度創設から携わっていただいております卯月先生、また、制度の運営に関しまして重要な役割を担っていただいておりますこども審査員及び大人審査員の皆様、こどもファンドアドバイザー、こども審査員サポーターに改めて感謝申し上げますとともに、まちづくり活動に取り組んだこども達の今後の活躍と、活動を応援していただいた皆様に感謝を申し上げます、ごあいさつとさせていただきます。

高知市長 岡崎 誠也



1 平成28年度「こうちこどもファンド」事業スケジュール

	運営等	広報等
1月		4日 民生委員児童委員協議会役員会で事業募集、第5期こども審査員募集の周知 6日 民生委員児童委員協議会会長会で事業募集、第5期こども審査員募集の周知 14日 市小中校長会で事業募集、第5期こども審査員募集の周知 20日 高知市近隣小中高校へチラシ配布 一事業募集、第5期こども審査員募集チラシ配布開始一
2月		1日 青少年育成フォーラムでチラシ配布 随時 コミュニティ計画推進市民会議定例会でチラシ配布
3月	20日 第5期こども審査員面接・選考会	こどもファンド通信(第17号) 発行
4月	3日 事前説明会① (会場：市民活動サポートセンター) 10日 事前説明会② (会場：市民活動サポートセンター)	応募受付期間
5月	6日 助成事業応募締め切り	こどもファンド通信(第18号) 発行
6月	12日 事前研修会(こども審査員) 19日 公開審査会 (会場：市南部健康福祉センター)	平成27年度事業報告書発行
7月		
8月		こどもファンド通信(第19号) 発行
9月		
10月	助成団体の活動期間	平成28年度公開審査会報告書 発行
11月		こどもファンド通信(第20号) 発行
12月		随時 コミュニティ計画推進市民会議定例会、地域内連携協議会で事業募集、第6期こども審査員チラシ配布

<p>29年 1月</p>		<p>4日 民生委員児童委員協議会役員会で事業募集、第6期 4期子ども審査員募集の周知</p> <p>6日 民生委員児童委員協議会会長会で事業募集、第6 期子ども審査員募集の周知</p> <p>10日 市小中校長会で事業募集、第6期子ども審査員募 集の周知 一市内近隣小中高校へ、事業募集、第6期こ ども審査員募集チラシ配布開始—</p> <p>19日 市社協全体研修会でチラシ配布、募集周知</p> <p>29日 青少年育成フォーラムでチラシ配布</p>
<p>2月</p>		<p>随時 コミュニティ計画推進市民会議定例会でチラシ配布</p> <p>子どもファンド通信(第21号)発行</p>
<p>3月</p>	<p>19日 第6期子ども審査員応募者面接 (会場：市南部健康福祉センター)</p> <p>19日 活動発表会 (会場：市南部健康福祉センター)</p>	

2 「こうちこどもファンド」の助成を決定する審査員

「こうちこどもファンド」の審査は、「大人審査員」と「こども審査員」が一緒に行います。「大人審査員」は、学識経験者や民間企業関係者、まちづくり活動関係者、行政などの分野、7名で構成されています。「こども審査員」は、平成28年度は、小学校4年生から高校2年生まで第5期こども審査員9名で構成されました。

「こども審査員」に就任した子どもたちへは、審査会の1週間前に、こどもファンドの事業趣旨を学ぶとともに、自分たちが審査する時のポイント（審査項目）を話し合い、決定してもらうため、「事前研修会」を開催いたしました。「こども審査員」のサポート役として、「こども審査員サポーター」を引き続き配置し、審査ポイントを話し合う際の、子どもたちの意見の引き出し役や、公開審査会当日、こども審査員を影で支援する役割を担っていただきました。

また、審査項目を決定した後、当課の職員がプレゼンテーションを行う模擬審査で、決定したばかりの審査項目に添って実際に審査を体験してもらい、1週間後の公開審査会本番に備えました。

また「事前審査会」では、応募グループから出された申請書の内容について「大人審査員」と「こども審査員」が情報を共有しました。



申請団体側のサポートとしては、「こどもファンドアドバイザー」を配置し、①こどもファンドへ応募するまでの企画を検討するとき、②応募後、公開審査会での発表方法を考えるとき、③助成決定後、活動に取り組みだしたとき、の3段階におけるアドバイスや、活動発表会時の交流会の司会進行を行っていただきました。

【アドバイザー派遣】



こども審査員

松岡 陽 (まつおか ひなた)	小津高校2年
大原 正裕 (おおはら まさひろ)	高知学芸高校2年
大原 弘靖 (おおはら ひろやす)	附属中学校3年
田部 祥一朗 (たべ しょういちろう)	城西中学校1年
森本 向日葵 (もりもと ひまり)	大津中学校1年
松下 藍花 (まつした あいか)	附属中学校1年
青木 晴楓 (あおき はるか)	はりまや橋小学校5年
勝田 佑 (かつた ゆう)	三里小学校4年
増田 光祥 (ますだ みつよし)	高知小学校4年

大人審査委員

審査委員長 卯月 盛夫	早稲田大学社会科学部・社会科学総合学術院教授
審査副委員長 吉門 文恵	株式会社 ケンジン 取締役・専務
審査委員 梶 英樹	高知大学地域連携推進センター地域コーディネーター特任助教
審査委員 尾崎 昭仁	NPO高知市民会議
審査委員 横田 寿生	高知市教育長
審査委員 神崎 修	高知市市民協働部部長
審査委員 山川 瑞代	高知市こども未来部部長

サポート役

こども審査員サポーター 佃 典高	(高知市教育委員会学校教育課 指導主事)
こどもファンドアドバイザー 畠中 洋行	

※役職・学年等は平成28年度のものです

3 こうちこどもファンド公開審査会

日時:平成 28 年 6 月 19 日(日) 13 時 30 分~17 時

場所:高知市南部健康福祉センター2階 大ホール

参加者:約 100 名



開会 (13:30~)

☆開会のあいさつ 高知市長 岡崎 誠也

☆審査員等の紹介

☆審査の流れ

応募団体によるプレゼンテーション・質疑応答 (13:40~)

☆高知市立久重小学校6年生

☆潮江中防災プロジェクトチーム

☆NankaiSurvivalProject (NSP) 実行委員会

☆チーム龍馬

☆おおつっ子

☆ロサンゼルス日系四世とバスケットボールを通じて交流するチーム

☆一宮家おもてなし隊

こども審査員による一次判断 (14:50~)

審査員による公開審議 (15:05~)

☆応募団体への審議

☆提案など

☆大人審査員から一言

審査結果発表 (16:15~)

☆審査結果発表

☆こどもファンドアドバイザー・こども審査員サポーターからの感想発表

☆こども審査員からの感想発表

☆審査委員長からの講評 審査委員長 卯月 盛夫



6月19日（日）高知市南部健康福祉センターにおいて、「平成28年度こうちこどもファンド公開審査会」を開催いたしました。

応募7団体が、自分たちが取り組みたいと考えている活動の内容を、パワーポイントやコーラスを交えながら、趣向をこらした方法でプレゼンテーションを行い、審査員にアピールをしました。

★審査の流れ

- ①応募団体のそれぞれに、助成申請した活動内容について公開プレゼンテーションをしてもらいます。（持ち時間は3分間）
- ②各応募団体のプレゼンテーションが終了するごとに、審査員との質疑応答の時間を設けます。（5分間）
- ③公開プレゼンテーションと質疑応答の結果をふまえ、こども審査員9名が、各応募事業について「いいね!」「もう少し質問がある」「もうちょっと!」のいずれの項目に該当するか、一次判断を行います。
- ④一次判断の結果をもとに、助成をするかしないか、こども審査員と大人審査員が、公開で審議を行います。「もう少し質問がある」「もうちょっと!」にシールが貼られている団体に対して、審査員から再度、質疑応答の時間を設けます。
- ⑤公開での審議後、こども審査員9名が、助成するかしないかについての最終判断を行い、こども審査員の過半数、5名以上が助成すると判断した場合に助成が決定します。
- ⑥審議結果については、公開の場で発表します。



★審査結果

応募された7団体すべてが助成と決定しました。



助成団体名	活動のテーマ	審査結果	助成金額
高知市立久重小学校6年生	国際色豊かで災害に負けない久重地区を作ろう	採択	200,000 円
潮江中防災プロジェクトチーム	防災学習の取り組みと地域防災への啓発・貢献	採択	154,400 円
Nankai Survival Project (NSP) 実行委員会	まもれ、高知 自らの生命を守り、 我らの地域を救う	採択	200,000 円
チーム龍馬	城西龍馬新聞 「ボランティア特集」	採択	200,000 円
おおつつ子	地域へと 笑顔をつなげ おおつつ子	採択	200,000 円
ロサンゼルス日系四世とバスケットボールを通じて交流するチーム	高知—LA 四世バスケットボール交流	採択	200,000 円
一宮家おもてなし隊	一宮家はひとつの大家族やき！！	採択	181,500 円

※なお、公開審査会の内容の詳細は、平成28年10月発行の「こうちこどもファンド 平成28年度審査会報告書」に掲載しております。

【審査委員長 講評】

卯月 盛夫 審査委員長(早稲田大学社会科学総合学術院教授)



まず、7つの申請して下さった団体、助成金決定おめでとうございます。みんなホッとしてああ良かったな、今日1日苦しいこともあったけど、これから1年間楽しくやろうっていうふうに思ってくれれば幸いです。今年の傾向とちょっとこれからのこと、立場上お話をさせていただきます。

今年は7つの申請ということで、これまでの4年間に比べるとちょっと少なめだったと思います。ただ、質は当然ながら2年目あるいは3年目というグループもあるので、だんだん発展・展開しているなと思いました。7つの団体のうち、小学校が1つ、残りの6つは全て中学校という形での申請でした。これまでも中学校は比較的多かったですが、もちろん小学校もあり、高校もあり、それから小・中・高という分け方ではなく、地域の中に住んでいる小学生・中学生・高校生含めて地域で出してくださいところもありました。

こういった企画をお手伝いしている立場から言うと、もう少し地域から出てくるという物もあってほしいなというふうに思います。ただ学校が熱心にやってくれることも我々は当然ながら応援したいと思っています。

テーマで申しますと、7つの団体のうち、6つの団体は全て防災や減災という内容が含まれていました。防災をメインにやる場所はそのうち半分くらいかもしれないけど、地域に入っていく以上、やっぱり高知の地域特性があります。防災のことを考えるということによって子供たちと地域の住民の方々と交流を深めたり、あるいは将来のことを考えようというのは当然のことだと思います。高知以外でもこういう助成金のお手伝いを少ししていますが、ここまで防災のことをきちっと毎年子供たちを含めて考えているところはそう多くないので、いつか来てしまうかもしれない震災のために普段の努力をしていることが多分良い結果になるだろうと期待しています。防災以外のことで言えば、もちろん地域には色んな活動がありますが、ボランティアの話やアルミ缶回収、清掃、僕の印象からいうと今年初めてかなと思うのが国際交流です。バスケットボールのロサンゼルスとの交流は当然ですが、もう1つ久重小学校の外国から来られている先生方との交流というのも初めてのことで、横田委員の指摘にもあったように、地域特性を相当活かしている、あるいは学校とか教育委員会とか市の予算でなかなか支援できないところを地域の子供たち、あるいは学校ぐるみで防災とはまた違う立場から申請をしてきてくれたということは大変嬉しかったです。

もう1つ今年申し上げたいと思ったのは、先ほどご紹介もありましたが、こども審査員のことを少し最後にお話したいと思います。「こうちこどもファンド」のように、子供たちが地域社会のことを考えて、自分たちもこういう活動をしたいと応募をしてきて、それに助成金をつける制度というのは日本では多くはありませんがいくつかあります。たとえば県にしても国にしても学校に助成金を出してやってくださいという形で、書類審査だけのところもあります。ただ、この「こうちこどもファンド」で特徴的なことは、審査するのが大人ではなくて子供たちだということです。ここにいる9人の子供たちが審査する。我々は大人審査員と一応名前はあるんですが、持ち票は1票もありません。あくまでも子供たちが判断するときに必要なアドバイスをしたり、これはちょっと誤解してるなというときにお手伝いをしようという立場で我々はいるわけです。そういう意味で日本広しといえども子供の活動を子供が自ら審査するっていうのはこのファンド、「こうちこどもファンド」以外無いわけです。その先駆性が極めて豊かであるし、今日この同じ会場で子供たちの質問あるいは子供たちの質問

に対しての回答、やりとりは、ほとんど大人が関係ないところで子供たち同士で将来の高知のまちづくりのことを考える意見交換が行われた。非常に緊張な時間もあったけど、あれがこの「こうちこどもファンド」のもっとも重要な時間だったというふうに今思います。

今回3年目を迎える審査員が7人いますが、1年目、初めて緊張しながらお兄さんお姉さんの様子を見ながら体験しています。2年目、3年目、ものすごくこのこども審査員は成長するんです。一週間前に4つの審査基準を作るということも、毎年同じなのだから、基準なんか作る必要ないと思ったこともありましたが、それは大間違いでありまして、審査員も変わりますので、前年の経験を活かして今年はここを重視しようという形で自主的に作っていることも評価できます。また、その一週間前のことを活かして申請書をくまなく読んできて、さっき誰かの見ましたら質問したいところに付箋が入っていて、そこに全部メモ書きがしてあります。そこまでこども審査員は責任を持って自分の意見をみなさんにぶつけないところ、僕ら全く結果に関与しないわけだけど、そういったことで実は3年目を迎えたときに本当に素晴らしい質問や、相手に対する敬意というか配慮もしながら、でも厳しいことはやっぱり聞かなきゃいけないってことで質問してたと僕は思います。こういう形で子供同士、子供が活動することだけど、同じ子供と一緒に応援する、あるときは厳しいことも言うかもしれないけどそれは子供たちにとっても役に立つことだと、最終的には高知に役に立つことだということを進めていることをぜひみなさんご理解していただきたいし、感じていただけたらと思います。もう1度繰り返しますが、こういった申請及び審査というのは公開でやらないところの方が多いです。僕らは落とすことを全く目的としてないです。当たり前ですが、申請を出してくれた、自分たちの地域のことを考えてこうしたいって子供たち、あるいは学校ぐるみの活動を応援したいけどもちょっと方向がこのファンドの主旨にあってない、あるいはもう少し修正してくれるとぜひ応援したいしたいというその辺のボーダーのものははっきり言ってあります。だけど、せっかく応募してくれたからには高知のまちを良くしたい、高知に住んでいる人たちの交流を深めたい、子供たちが一度大阪とか東京に出て行っても最後は高知に戻ってきて高知で暮らしたい、そういう人を増やしたいというのがこの主旨にあります。その主旨をきちっと考えると、いくつかの地域から解決するということを出してきてもやっぱりその子供が独自にその地域その地域のオリジナルな提案とか、その地域ならではの子供が発想してそれを大人がサポートするという部分を、きちっと評価をしたいし、それが無いところは質疑応答で少し色んなやりとりがあったということを感じていただければと思います。ほとんど満票に近い形ですが、いくつかのグループは2票入ってなかったり、1票入ってなかったりします。それは細かく内容を申し上げませんが、子供たちとの質疑応答の中で色々指摘された内容がやはり最終的な判断になっていることは事実でありますので、今後活動する中でぜひその部分を配慮していただきながら活動する、高知の子供たちをみんなで大人が支えていくという、応援していくということでありますので、子供たちの発想、子供たちの豊かな活動、育てていきたいというふうに最後に思った次第です。少し長くなりました。どうもありがとうございました。



4 助成団体の活動

助成活動期間:平成 28 年7月1日 ~ 平成 29 年2月 28 日

審査会において助成決定された7団体は、それぞれ次のような活動を行いました。

団体名	支援団体	活動内容	大人サポーター (責任者)	実績額 (円)
高知市立久重小学校6年生	市内ALT教諭 久重小学校保護者 株式会社 フタガミ 株式会社 相愛	○各国の食を紹介する国際交流会の開催 ○英語、英会話学習 ○防災食品試食、食品づくり体験	上村 国之 久重小学校校長	200,000
潮江中防災プロジェクトチーム	潮江地区自主防災組織 潮江小学校, 潮江東小学校, 潮江南小学校	○非常持ち出し袋の中身の学習 ○防災避難所カルタ作成	岡林 永祥 潮江中学校教諭	154,300
Nankai Survival Project(NSP)実行委員会	南海中学校区地域校園協働会議 浦戸小学校, 長浜小学校 南海中学校区自主防災組織	○地域で避難訓練の開催 ○高齢者施設や小学校, 保育園などで防災啓発活動 ○防災マップやポスターの作成 ○東日本大震災被災者(中学生)とテレビ会議	永原 潤一 南海中学校教頭	200,000
チーム龍馬	城西中学校生徒会 横浜中学校	○城西龍馬新聞(ボランティア号)作成・配布 ○龍馬のボランティア八策の作成・配布	濱口 真由 城西中学校教諭	200,000
おおつっ子	大津小学校	○アルミ缶回収を行い、お金と交換し地域へ贈呈 ○清掃活動, 炊き出し訓練の開催	戸田 浩司 大津中学校生徒会担当教諭	200,000
ロサンゼルス日系四世とバスケットボールを通じて交流するチーム	高知県バスケットボール協会 バスケットボールチーム保護者会	○LAバスケットボールチームをホストファミリーとして招き、バスケットボール交流, 日本文化体験	岡林 保幸 横浜中学校校長	200,000
一宮家おもてなし隊	一宮中学校コーラス部, PTA	○あいさつ運動・高齢者施設訪問 ○地域で防災グッズ作り	柳谷 百香 一宮中学校生徒会担当教諭	151,294



☆高知市立久重小学校6年生☆

国際交流と防災の活動を行い、久重地区で国際交流会や、防災食品試食会を開催しました。



☆潮江中防災プロジェクトチーム☆

防災をテーマに、地域でアンケートやプレゼン、防災避難所カルタで交流をしてきました。また、非常持出袋の中身の学習を全校生徒で行い、夏休みに各自入れるものを用意して保管しました。



☆ロサンゼルス日系四世とバスケットボールを通じて交流するチーム☆

バスケットボールを通じて、国際交流をしました。ホームステイや文化交流も行い、仲を深めました。



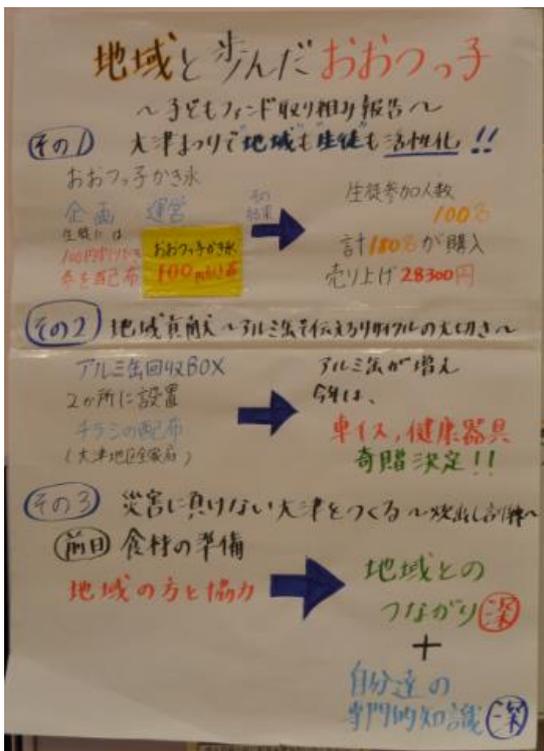
☆Nankai Survival Project(NSP)実行委員会☆

地域へ防災を伝える活動を3年間行ってきました。助成が
終わった後も、活動を継続していく予定です。



☆おおつっ子☆

アルミ缶回収や地域のイベントの参加で繋がりを深めました。

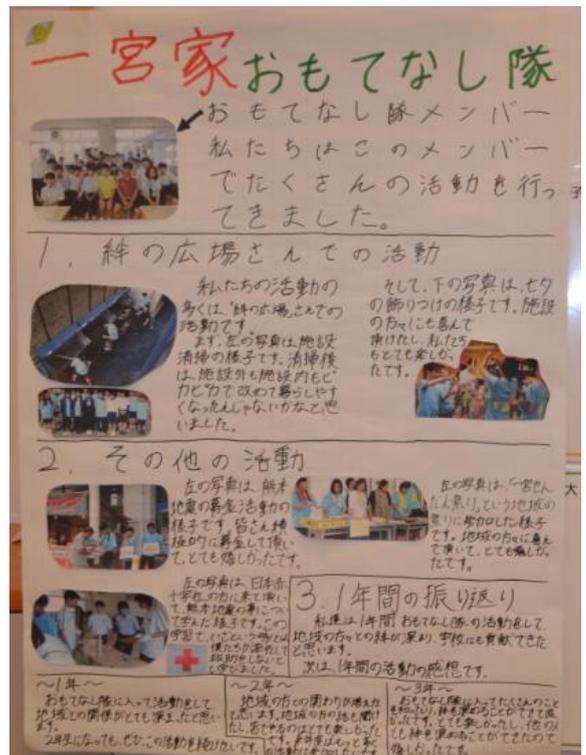


☆チーム龍馬☆

ボランティアをテーマに、城西龍馬新聞、龍馬の
ボランティアへの八策を作成し、配布しました。

☆一宮家おもてなし隊☆

清掃やあいさつ運動を通じて地域との繋がりを作
ってきました。3年目に向けて活動を続けます。



5 こうちこどもファンド 助成団体活動発表会

日時:平成 29 年3月19日(日) 13 時 30 分~17 時

場所:高知市南部健康福祉センター 2階大ホール

参加者:約 70 名



13:30 開会

☆審査員等の紹介

☆本日の説明

13:35~ 助成団体による活動成果発表 開始(7団体発表)

各団体が3分以内で発表し、その発表内容についての感想や質問を、2分以内で「付せん」に書いてもらいます。

14:15~ 休憩・投票タイム(15分)

活動発表中に書いた「付せん」を各団体の模造紙へ貼ってもらいます。また、休憩時間中に、発表をきいて素晴らしい活動だと思った団体の投票箱へ投票用紙を入れてもらいます。

14:30~ 交流タイム

大人審査員とこども審査員がペアになり、模造紙に貼られた、各団体への感想や質問をもとに、参加者同士の交流をはかります。

15:30~ 休憩・投票タイム(15分)

15:45~ こども審査員からの感想発表

発表を聞いて感じたことなど、簡単に感想を述べてもらいます。

16:00~ 団体表彰

受賞団体に対し、表彰状・表彰盾を授与します。

16:10~ 市長からのあいさつ

☆高知市長 岡崎 誠也

審査委員長からの講評

☆審査委員長 卯月 盛夫

16:20 閉会

16:30~ 記念撮影

参加者全員で記念撮影を行います。



3月19日（日）に、平成28年度の助成団体活動発表会が開催されました。7つの助成団体が、自分たちが取り組んだ活動について、1グループ3分以内で発表を行いました。

助成が決定してから8ヶ月間、学業やクラブ活動など、多忙なスケジュールを調整し、自分たちの住む「まち」をより良くしていきたいという思いで、活動してきた子どもたちの発表は頼もしく、大きく成長した姿を見ることができました。

また、参加者には、それぞれの団体の発表に対する、意見や提案・質問を付箋に書いてもらい、発表グループが活動内容をまとめてきた模造紙に貼ってもらいました。その後の、こどもファンドアドバイザーによる進行で行われた交流タイムでは、貼られた付箋の内容をもとに、審査員と、助成団体とがやりとりを行い、会場内参加者の交流を図りました。



【平成 28 年度活動発表会 交流会で出された質問や意見のまとめ】

団体名：高知市立久重小学校6年生

① こどもメンバーへの質問

- ・3年間で3日分の防災食を備蓄するので大丈夫ですか？早い準備が必要だと思いますが。
- ・English すいか割りは右も左も英語で言うのかなと思いました。
- ・「英語」の授業はありますか？
- ・英語はどうやって使えるようになりましたか。
- ・国際色豊かであることと防災については分離されたものでしょうか。
- ・備蓄食料の保存は5年間保存できるとのことですが、期限が過ぎた場合どのように処理をしていますか。
- ・小学生なのに英語を頑張って使って、世界のことを学ぼうとしていたのは非常に素晴らしいと思った。
- ・あのチームをなぜ作ろうと思ったか。
- ・学校内だけでなく、地域の方々は何人位参加しましたか？
- ・アレルギー対策の防災食があると言っていましたが、例えばどのようなものが具体的にあるか。
- ・キャンプでは泊まったんですか？
- ・フタガミさんとの協働はどういった内容ですか？
- ・どのくらいの地域の人たちと顔見知りになりましたか？
- ・防災と国際交流の活動、相互の関わりはありましたか。

② こどもメンバーへの意見・提案

- ・イングリッシュキャンプなど英語を使った活動はおもしろいなと思った。
- ・久重小学校地元企業との交流ができてとても良かったですね。
- ・災害について調べたり、非常食の会社？とかにお願いして実際に食べてみるというのがいいなと思いました。
- ・色々な非常食があるんだなと思いました。
- ・詳しく書けていたので分かりやすかった。非常食についてよく分かった。
- ・非常食はアレルギーの人たちにも食べられるようなものがあることを知り、とても便利だと思いました。
- ・トラブルなどもありながら最後までできていてすごいと思いました。
- ・外国のことがたくさん知れておもしろそうだと感じた。日本と外国の違いが分かり、より日本の良さも分かったのではないのでしょうか。
- ・日本だけでなく、海外の方とも交流を行い、2チームに分かれて取り組みを効率よく行っていいと思った。
- ・災害の時にも強いまちづくりができていて良いと思った。外国の方ともふれあいのできるまちづくりをこれからも続けてほしい。
- ・色々な英語を使ってコミュニケーションをとったり、みんなで試食して決めるということが良いと思います。

- ・写真や企画内容から楽しそうなのが伝わった！！
- ・英語の企画などがものすごく良いなと思いました。
- ・外国の方との交流の様子がよく分かった。ぜひこれからも続けてほしい。
- ・いつから始めたものかも詳しく分かったので良かったです。声の大きさもすごく大きくて聞きやすかったです。
- ・地域内企業との協働は素晴らしいですね！
- ・非常食についてみんなで協力して調べていたのでとてもすごいと思いました。これからも頑張ってください。
- ・自分たちで積極的に活動を行っていたのすごいいと思った。外国の人とのふれあいも良いと思った。
- ・英語や非常食など色々な体験を通して発表していたのすごいいと思いました。
- ・防災と国際交流を同時にグループでできていたところがすごいと思う。
- ・防災や英語など様々な分野の活動の内容がよく分かった。
- ・防災チームと国際交流チームに分けて交流しながら、色々な防災を考えていてすごいいと思いました。

③ 大人への質問

- ・防災食品試食会では14食品が選ばれたと言っていました、どんなのがありましたか。
- ・備蓄の食糧を別の予算で購入することはできないのでしょうか

④ 大人への意見・提案



【平成 28 年度活動発表会 交流会で出された質問や意見のまとめ】

団体名：潮江中防災プロジェクトチーム

① こどもメンバーへの質問

- ・家具固定の事で最低でも「これだけは固定しておいた方がいい！」というものはありますか？
- ・非常時持ち出し袋は全校に配布したのか。
- ・防災アンケートの集計結果に対して、原因もしくは対策を考えたか。
- ・非常持ち出し袋はみんなの手がすぐ届くところに置いてますか。
- ・なぜ防災カルタは4年生と6年生だけなのか？
- ・筆山への避難経路の4箇所はどこですか。
- ・カルタを全学年には贈呈しなかったのか？
- ・「防災新聞」はどこで手に入れることができますか？
- ・持ち出し袋、中は別でいくらでしたか？
- ・防災プロジェクトで一番力を入れた取り組みは何ですか？
- ・カルタは誰に配布しましたか？
- ・非常持ち出し袋、一人ひとり「何が自分に必要なものか」を考えた。←この中で「面白いな」と思ったものはありましたか？
- ・今後カルタの活用方法は考えていますか？
- ・今後の活動はアンケートの集計を使い高知市全体で防災の意識を高めてはどうですか。
- ・地域の人だけにアンケートの結果を伝えたんですか？それとも業者さんにも伝えたんですか？
- ・アンケートをした結果を今後どう利用しますか。
- ・アンケートは誰が行ったんですか？

② こどもメンバーへの意見・提案

- ・高齢者の方々に話を聞いた所でとても良い取り組みだと思いました。
- ・アンケートをとったり、防災についての色々なことについて分かりやすかったです。
- ・アンケートを行ったことや小学生、高齢者の方と交流を行ったことは、災害時に何か成果に繋がると思う。
- ・アンケートをしたりしていいと思いました。地域の学校とかと連携するのが良いと思いました。
- ・防災のカルタを使ったり、アンケートを行うなど防災に対しての気持ちが高いのが分かった。
- ・アンケートを行うなど、災害に対する防災意識を高める効果的な取り組みをしていて良かった。
- ・グラフの文字をもう少し大きくすれば見やすいと思います。
- ・実際経験した方に話を聞いたりして、現実感あふれる取り組みをされ素晴らしいと思います。
- ・写真だけではなく物があり、すごく分かりやすかったです。
- ・命を守ることについて詳しくプレゼンで伝わった。
- ・防災について考えるけど行動に移したことはなかったので、これから行動していきたい。
- ・避難所カルタのアイデアは非常に良いと思う。自分の学校でも作成を考えてみたい。
- ・アンケート実施は良かったね。頭元に「くつ置く」はやはり少ない！防災学習取り組み良い。
- ・アンケート結果やカルタをこれからも積極的に活用して下さい。

- ・防災に関しての関心は大事だと思いました。
- ・結果だけでなくそれに対する意見がしっかり述べられていた。プレゼン上手ですね♪
- ・トランプやカルタで楽しく学んだり色々な人に聞くのはいいと思います。
- ・声をもう少し大きくし、原稿であまり顔を隠さない方が良いと思います。
- ・続けていく！という姿勢が見られる。
- ・昭和南海地震を体験した人に話を聞いて、それを今に活かしてとてもよい学習だと思った。
- ・すごく分かりやすく良かったです。地震に備えて準備しようと思いました。
- ・“自分の命は自分で守る” そのための準備や知識が大切だと強く感じた。
- ・津波に備えてその時すぐに持ち出すことのできる袋を用意しているのはいいと思った。
- ・アンケートをとり、交流を深めていて、これからの意識を高めることができた。一人一人の意識が大事だと思った。
- ・すごく色々な資料を出していてすごいと思いました。
- ・防災のことについて色々なことを調べて述べていたのですごいと思いました。地震や津波にもっと興味を持とうと思った。
- ・様々な世代を通して防災意識の向上を行えていること素晴らしいです。
- ・アンケートを通して地域と交流するのはとても良いと感じた。
- ・アンケートをとってどこを改善すればいいかなどを考えていてすごいなと思いました。
- ・防災について考えられました。とても分かりやすかった。
- ・アンケートなどを行い、その結果を円グラフなどで分かりやすくしていたので良かったと思います。自分の部屋や枕元などにも靴は必要なので準備しようと思った。
- ・枕元に靴を置くことは学んでいるものの実践している家庭が少ないことがよく分かって良かった。備えようと思った！！
- ・アンケートをとって具体的な内容を理解できた。持ち出し袋を用意したり、災害にあった人から話を聞いたりして、ちゃんと災害に備えていることが分かった。

③ 大人への質問

④ 大人への意見・提案



【平成 28 年度活動発表会 交流会で出された質問や意見のまとめ】

団体名 : Nankai Survival Project(N S P)実行委員会

① こどもメンバーへの質問

- ・地域とつながるために地域のどの団体をどの様に選んだのか？
- ・なぜ手拭いを作ったのか？にわかをなぜしたのか？
- ・誰が劇をしようと提案したのですか？
- ・一番最初の劇は何を伝えたかったんですか。
- ・避難訓練は約何人くらい参加したか？
- ・どこで何回くらい「にわか」をやりましたか？
- ・地域の方の感想や意見はどんなことがあえましたか。
- ・たくさん活動していますが一番大変だったのは何ですか？

② こどもメンバーへの意見・提案

- ・保育園児にも防災についてのことを教えているのがすごいと思った。中学校が防災に対しての取り組みをとっても行っているのが良いと思った。
- ・人物になりきって言っていた所が良かった。
- ・にわかをもっと見てみたいと思える発表だった。地域の人から中学校が防災教育をしっかりしていると言ってもらえることは大変素晴らしいことだと思う。
- ・防災に対する意識を向上させたいという思いが伝わる発表だった。
- ・にわかとかで龍馬や元親が出てきておもしろかったです。アンケートとかもあり分かりやすかったです。
- ・手拭いほしいヨ。防災文化…良いね。努力した事が感じられた。かっこ良かった。龍馬、長宗我部。
- ・防災の事について地域と連携しながら考えられていて、とても良かった。
- ・最初の方ににわかという劇があって楽しかった。
- ・龍馬などが出てくる劇ではみなさんを惹きつけていて良かったと思います。これからも文化と防災の発展を頑張ってください。
- ・「防災にわか」が分かりやすくて良かった。地域との交流が深くとてもいいと思う。
- ・最初の方で龍馬などが出て来てやっていたのがおもしろかった。
- ・資料が見やすく目的もハッキリしていて、広い範囲を見ての感想など防災への高い意識があるのだと感じた。
- ・学校だけの取り組みでは災害を乗り越える事は出来ない。地域との連携の必要性を訴えた活動の大切さを感じました！
- ・「にわか」を見たのは2回目ですが、すごく迫力があってすごいと思います。私たちの学校もやってみたいと思いました。
- ・「にわか」の劇がおもしろくて良かったです。
- ・龍馬がすごく良かったです。発表も聞き取りやすかったです。

- ・ 龍馬とかが出てきておもしろかった。
- ・ 歴史上の人物を演じていて分かりやすかったです。少し歴史に興味を持ちました。
- ・ 内容がつまっていてとても良いですね。これからも続けていってください。
- ・ 活動が地域に根付いたと思います。皆さんの力は大きいです。
- ・ パワーポイントをもう少し見やすく整理した方が良いと思います。
- ・ いっぱいイベントに参加すると地域との絆も深まると思うので良いと思う。
- ・ 多くのプロジェクトに参加し、発表も劇風にしていて、とても勉強になった。
- ・ 劇になっていてとても分かりやすかったです。
- ・ 防災に対する取り組みをたくさんされ地域に防災意識を広めている取り組みは素晴らしいと思います。発表の仕方も龍馬役など工夫されていてとても良かったです。
- ・ 分かりやすく、坂本龍馬のふりをしたりしてとてもおもしろかったです。時間があっても忘れないように伝えることが大事だということが改めて分かった。
- ・ 坂本龍馬の格好などをしていてすごいなと思いました。
- ・ 坂本龍馬などになりきっていてすごいと思った。スクリーンの彩りが良くてとても見やすかった。
- ・ 他のチームと発表の仕方が違ってて少しおもしろかった。
- ・ 頑張ってるなあと思いました。写真も見やすかった。とても分かりやすかった。
- ・ 学校での取り組みを写真を使って紹介していて分かりやすかった。坂本龍馬とかになりきって紹介するのもおもしろかった。
- ・ コスプレもして役になりきれていてとっても楽しくて分かりやすかった。
- ・ 劇で始めてそのあとの資料などもとても見やすかったし、興味を持つことができました。
- ・ 様々な活動をしている事が分かった。
- ・ 防災にわか良かったです。
- ・ これからもこの活動を地域活動に繋げてください。
- ・ 園児交流が多く、知識や懇親が根強くなり良かったです！
- ・ (俄について) 動き回る動作があると目が資料の方に移らないので残念です。
- ・ 龍馬や知られていない武将を入れていることで分かりやすくしていたのでいいと思いました。

③ 大人への質問

④ 大人への意見・提案



【平成 28 年度活動発表会 交流会で出された質問や意見のまとめ】

団体名：チーム龍馬

① こどもメンバーへの質問

- ・「ボランティア八策」の活用は考えていますか？
- ・この活動をした上での成果やボランティアへの地域の住民の関心の程は。
- ・14部配るのは大変ではなかったですか？
- ・新聞の「タイムオーバーされた方」への記事がありましたが、それに使われている写真の生徒はどのような関わりの方たちなのか。
- ・印刷に全部のお金を使ったんですか。
- ・龍馬新聞の印刷代は1回につき何円ですか。
- ・メンバーは3人だけですか？取材編集は3人では大変ではないですか？
- ・嬉しかったことは？
- ・大変だったことは？
- ・龍馬マラソン号外はどこで配布したのですか？受け取った人の反応は？
- ・新聞はどうやって地域に広めましたか？
- ・来年度以降のチーム龍馬はどうなりますか？後輩が引き継ぐのでしょうか？

② こどもメンバーへの意見・提案

- ・学校内で色々な活動をしたり、ボランティアにも参加していてすごいと思いました。新聞づくりなど頑張ってください。
- ・横浜中とのコラボは良いと思います。これからも交流を続けてください。
- ・龍馬マラソンでの号外は、高知だけでなく全国の発信となったと思う。ボランティア！！
- ・本当の新聞のようにととてもよくできていると思います。これからも頑張ってください。
- ・新聞がとても本格的で驚きました。すごい。
- ・たくさん新聞を発行しているし、新聞でまとめられていていいなと思いました。
- ・本格的な新聞で驚きました。目標達成おめでとうございます。
- ・私たちの学校でも、新聞を作りたいと思いました。
- ・見やすい新聞を作っていてすごいです。3人で頑張っていて良かったです。
- ・プロジェクターを使った方が後ろの人が見やすい。
- ・新聞で色々な情報を知ってもらったりマラソンでの励ましの言葉は良いと思います。
- ・ボランティア八策、分かりやすく良かったです。
- ・土佐弁じゃなくて、薩摩弁を取り入れたのが新しくていいと思った。
- ・はっきり言っていて、分かりやすかった。学校内の活動の行いすごいと思った。
- ・薩摩の方の方言を使うということにより印象に残ると考えた発想が良いと思いました。
- ・セリフを全て覚えていてすごいと思った。
- ・聞く人を見てつまずらずにスラスラと発表できていました。新聞を作るというアイデアがとても良い。

- ・話す時ゆっくりで聞き取りやすかった。新聞を自分たちでつくって配布してすごいと思った。
- ・新聞の記事の中に土佐弁を入れたりするところがいいなと思いました。
- ・暗記しているのですごいと思いました。分かりやすかったです。
- ・分かりやすく説明していて良かったです。
- ・龍馬のしゃべり方で新聞をつくっていたということに驚きました。すごいと思います！
- ・とてもハキハキしていて聞きやすくて良かったです。
- ・仲間を増やして活動を広げると良いと思います。
- ・文章を暗記していて、自分たちが作った新聞だったのですごいと思いました。
- ・紙を見ずにハキハキと言っていてとてもすごいと思いました。すごく分かりやすかったです。
- ・中学校どうしの交流によっていっぱい気づくことがあるのは良い事だと思いました。
- ・自分たちの案で新聞を作成し、それを配布している取り組みとてもステキです。
- ・新聞がすごくいいと思う。セリフ覚えててすごい。
- ・ベンチ作成、ビラ配りなどをしていてすごいと思う。ボランティアなど大事だと思いました。新聞を使っている所がいいと思う。
- ・横浜中との連携。リーダー研修で新たな視点が見つかったことは良かったですね。
- ・パワーポイントを使用した方が見やすく相手にも伝わりやすいと思います。
- ・他校とも協力して自分たちでは出なかったアイデアを見つけ出していたのがすごいと思った。
- ・ぜひ龍馬新聞を各中学や小学校へ配布してもらえるといいなと思えるほどの質の高い完成度で素晴らしいと思います。
- ・別の学校と協力するところがいいと思ったです。
- ・新聞にたくさん掲載されていたので読みたいと思った。
- ・“来年も待ちゆうき”とっても良いですね。また来たくなりますヨ～。文字も大きくて見やすい。
- ・これからもボランティアを行い、龍馬新聞を続けてもらいたい。

③ 大人への質問

④ 大人への意見・提案

- ・ファン参加校同士での意見交換や交流・合同活動などできたらおもしろいと思います。



【平成 28 年度活動発表会 交流会で出された質問や意見のまとめ】

団体名：おおつつ子

① こどもメンバーへの質問

- ・なぜおおつまつりで売るのをカキ氷にしたのですか。
- ・リヤカーはこれからどのように利用していきますか？
- ・キャラクターはどのようなところに活用するの？
- ・なぜおおつつ子なのか？
- ・ポイ捨て禁止看板は今後設置する予定はありますか？（活動できないため）
- ・アルミ缶回収のリヤカーはどんな時にどうやって使うのですか？
- ・車椅子は何台寄贈できた？
- ・他にどのような活動を計画していますか？
- ・アルミ缶リヤカーはどんな場面で活用されるのでしょうか。（回収とはあるが）

② こどもメンバーへの意見・提案

- ・息ぴったりで見ている楽しかったです。
- ・大きな声でハキハキと発表していてすごいなと思いました！
- ・これからも活動を続けてください。
- ・マイクを使わず、大きくて元気な声で発表していてすごかったです。
- ・実際に会話している感じが良かった。
- ・災害時に役立つことなども知れて、自分たちもやってみようと思いました。
- ・発表の仕方が工夫されていてとてもよく伝わってきました。地域に繋がろうとする思いのこもった取り組みをされているなと思いました。
- ・カキ氷で儲けたお金を利用して、アルミ缶回収 BOX を作ったり、地域にも呼びかけて集めたというのがすごいと思った。
- ・マイクを使っていなかったし、息が合っていた。とても良かった。
- ・地域との関係も深めて、学校の生徒のボランティア意識も高める。まさに一石二鳥だと思いました。
- ・とてもユーモアでおもしろくて、聞き手に興味を持たせました。
- ・会話文も交えたりしていたので分かりやすかったです。
- ・中学生に来てもらうために、自分たちでいろんな事を考え、実行をしていたのすごいいいと思いました。アルミ缶の回収も地球温暖化を防ぐためにもなるし、車椅子なども作れるので、とてもいい考えだなと思いました。
- ・とても分かりやすく、話をしながら説明してくれたのでよかったです！
- ・ステキ、回収リヤカー。地域の皆さんを巻き込んで共に協力したこと良かった！！
- ・オリジナルのリヤカーを作ったり、100円割引のカードを配ったり、カキ氷をやったりしていたのはいいなと思いました。

- ・おおつつ子Tシャツというのがいいと思いました。地域と連携しているところもいいなと思いました。アルミ缶回収BOXもいいと思いました。
- ・おおつつ子っていう印象的な名前と、分かりやすい説明でとてもおもしろく活動内容を知れました。Tシャツとか、会話形式もいいと思う。
- ・アルミ缶回収コーナーを増やすといいと思います。
- ・おおつつ子のカキ氷などの取り組みは、私も行ってみたいと思いました。
- ・会話をしているみたいで聞きやすかった。沢山の活動内容が頭に残りやすく、リヤカーはとっても印象に残っている。
- ・防災の炊き出しで団子を作るという案がとても良いと思いました。インパクトもあって興味が湧く話し方をされていて良かった。
- ・マイクを使わずに言っていたけど、とても聞きやすくてよかったです。しかも会話なども入れて分かりやすかったです。
- ・しっかりとした結果も実績がでている。(アルミ缶回収BOXについて)
- ・プレゼンが本当に上手でした。沢山練習したんだろうなあ…と思います。
- ・一つ一つの企画が続いて拡大しているのでそのいきだなと思いました。
- ・土佐を使ったりして、自分たちが考えたことを言っていて面白かった。ただ言うだけじゃなく、少し動きもあって良かった。
- ・マイクなしで大きな声で言えたり、Tシャツを使って、発表したりしててすごかったです。
- ・地域の方と協力していろんな活動を行っているし、多く地域の方とふれあっているのがいいと思いました。
- ・アルミ缶を通して→地域へ→地域と共に防災→小・中学生と地域と一緒に活動っていいね！！
- ・プレゼンがとても良かったです。
- ・学校が地域を繋いでいて素晴らしいと思いました。
- ・セリフも覚えているし、フリマでつけていてすごいと思った。
- ・とても分かりやすかった。マイクなしでも大きな声が出ていたので聞きやすかった。
- ・聴いていて、面白いと思える発表でとても良かったです。みんなの発表の連携がすごかったです。
- ・販売員に関わることでまた別のものが得られ良い経験になったと思います。
- ・まじめで規則正しいですね。すごくなる！！

③ 大人への質問

- ・大津地域は大人のまちづくりファンドでも大津こども会連合会が助成を受けていますが、繋がりはありますか？
- ・リヤカーは購入ですか？（支出にはありませんので？）

④ 大人への意見・提案



【平成 28 年度活動発表会 交流会で出された質問や意見のまとめ】

団体名：ロサンゼルス日系四世とバスケット
ボールを通じて交流するチーム

① こどもメンバーへの質問

- ・交流を通じての各々の変化が知りたいです。
- ・お金を使ってやったのはバスケットですか。
- ・日系四世の方々と交流して学んだことがあれば教えてほしい。
- ・この事業は継続していきますか？その費用は？
- ・日本の事だけでなく、外国の事についても、何を学びましたか。
- ・ホームステイではしっかりと交流できたのかどうか。
- ・どのようなTシャツなのか？（交流記念Tシャツ）
- ・なぜバスケだったのか？
- ・どうやってバスケットボールを通して外国と交流しようとする考えが生まれたんですか。
- ・日系四世の方と交流したことによってどんなことが学べましたか。
- ・今後の交流はどのような活動を行うと考えていますか。

② こどもメンバーへの意見・提案

- ・外国の新聞に載っているところがすごいと思いました。
- ・グローバルですね。
- ・高知に来てもらって高知の文化を知ってもらって交流してメールでやっているのはいいと思います。
- ・アメリカとの交流すること、とても良いと思った。色んなところで交流を深めていっているところが良いと思った。自分もバスケ部だから親しみやすかった。
- ・男女ゆかたを着て最後の夜を過ごすのが楽しそうで良いなと思いました。
- ・ロサンゼルス日系四世の人たちと交流しているのがとても楽しそうだなと思いました。
- ・感想や成果をもう少し述べてほしい。（まちづくりに関しての成長はあったのか）
- ・海外の人との交流をスポーツでしていっていることがすごいなと思いました。
- ・スポーツで交流するという考えがとても良いと思います。
- ・バスケットボールを通じて高知とロサンゼルスに繋がりができたという成果はとても素晴らしいものだと思います。
- ・外国と交流なんて滅多にないのですごいなあと思いました。
- ・資料が見やすく、他の学校や外国の方と交流をしていて、楽しそうだなと思いました。
- ・バスケを通して外国と交流していいと思いました。
- ・バスケットボールを通じてロサンゼルスの方々との交流をし、活動を広げていくのは良いと思った。
- ・交流がすごく楽しそう！！私も交ざりたい。
- ・アメリカと交流をして楽しそうだなと思った。私たちの学校も国際交流をしてみたい。
- ・世界の人々とバスケットボールを通じて交流するのはとても良い経験になると思いました。

- ・国境を越えての交流、素敵です。
- ・四世チームと楽しく交流ができている様子が伝わってきた。アメリカとの交流はとてもすごいと思った。
- ・アメリカと日本の壁を越えてバスケットボールなどで交流することはとても良い活動だと思った。これからも世界へ進出してほしい。
- ・外国の人と交流することはなかなかないし、それをバスケットボールや日本文化を通じて交流できるのはすごいなと思った。
- ・外国とバスケットボールで交流していて、写真を見ても楽しそうだなと思いました。
- ・交流を国外までも広げているところが他ではできない体験となっていていいことだと思う。
- ・ホストファミリー他たくさんの皆様の協力の元楽しんだね。交流は続けてください。
- ・地域との交流が少なかったなので次は地域も巻き込んだ活動を考えることもいいと思った。

③ 大人への質問

④ 大人への意見・提案



【平成 28 年度活動発表会 交流会で出された質問や意見のまとめ】

団体名：一宮家おもてなし隊

① こどもメンバーへの質問

- ・防災グッズ材料費がかなり変わってますが、なぜですか？
- ・今後も「おもてなし隊」活動は続けますか？
- ・小学校へあいさつをしに行くとき、どのようにあいさつを工夫しましたか。
- ・「おもてなし隊」の幅を広げているところがいいと思う。小学校、施設での交流も活発で真似したいと思った。
- ・「なぜ」自分が大切だとおっしゃっていたのですか？
- ・「ドリー夢メーカー」とは、具体的にどのようなものですか。
- ・「一宮中学校がこわい」といわれた理由は。
- ・何で一宮中学校が「怖い」と言うイメージがあるんですか。
- ・メンバーが 40 名ほどいるという話でしたが、三年生が減り、人数が減ったと思います。そこでまた新たにメンバーを募集しますか。

② こどもメンバーへの意見・提案

- ・地域の方々といっしょになっての活動はすばらしいと思います。
- ・自分たちにできることを自分たちで考え、取り組んでいるところが一宮家の良さであり強みだと思いました。
- ・防災活動から、小学生との関わりまでさまざまな活動を行っていて、とても勉強になった。
- ・小学校でのあいさつ運動をしたりするのは、次への中学校の不安をとり除けるのでとても良いと思いました。
- ・聞きやすい声でとても興味をもちました。みんながはきはきしゃべっていてよかったと思いました。
- ・あいさつ運動や高齢者施設に訪れるというのは良いと思います。
- ・活動する生徒を募集したのは良かったと思います。活動が広がりましたね。
- ・備えが大切だとトイレの写真などで分かった。「自助」が大事という事、あいさつ運動などの交流をくれた。
- ・小学校校門で中学生があいさつするのは新鮮で素晴らしい発想ですね。ぜひ続けてほしいです。
- ・地域の人たちと関わろうとする活動が多いのが良いなと思った。
- ・とても楽しそうでいいと思いました。これからも頑張ってください。
- ・Tシャツがカワイイと思います。
- ・分かりやすく良かったです。
- ・水色がサイコー！めっちゃ頑張ってるのがいい！
- ・ちゃんと自分たちで活動をしてすごいと思った。おもてなし隊も 40 人にまで増やしていてすごかった。

- ・日本のおもてなしをどんどんよいものにしていただきたいと思います。そして命についても理解を深め、どんどん助け合い、防災にもつなげてほしい。
- ・一宮家おもてなし隊のメンバーを募集すると40人集まってすごいと思いました。実際に災害にあった人に話を聞いていてすごいなと思いました。
- ・あいさつ運動は大切なので取り入れたいなと思いました。
- ・大きな声で聞きやすかったです。これからも頑張ってください。
- ・小学校へあいさつ運動などをして地域の人達と交流するのは良いと思いました。避難所の状態を把握し、対策を考えており良かったと思う。
- ・いろいろな活動を頑張っていますね！おそろいのTシャツとかも良いですね！！
- ・震災の時の事を深く調べて対策をとるのはいい事だと思いました。
- ・小学校での挨拶運動、とても良いと思った。
- ・小学校であいさつ運動をしたり、高齢者施設に行ったりして地域の交流を深めていることが分かりました。
- ・「おもてなし隊」はとても学校のために頑張っている活動だと分かった。あいさつ運動はとてもいい活動だと思った。
- ・聞きやすかったです。
- ・すごい！！「トイレ」の写真ちゃんと見て考えましたね。おもてなしのいい言葉です。
- ・防災学習や命について学習をしたり、小学校にもあいさつ運動を行ったり、活動の輪を多分野で広めていることは良いと思った。
- ・「命の授業」で学んだことを新聞などで地域の人に伝えてみてはどうですか？もっと命の大切さが伝わると思います。
- ・災害時に備えるためにたくさんの企画や自分や人を守るためにちゃんと考えていてとてもすごいと思いました。
- ・小学校へのあいさつ運動はぜひ参考にしたいと思った。生徒会の活動としても見習う所が多いと感心しました。
- ・命の授業を私たちの学校もしているけど、初めて聞く言葉が多かったので、もっと視野を広げていきたい。
- ・一宮中以外のスタッフも増えたら良いなあ…って思います。
- ・あいさつ運動によって小学生との距離を縮めることはとてもいいと思います。これからも続けてもらいたい。
- ・元気、すっごーい！

③ 大人への質問

④ 大人への意見・提案



★団体表彰

平成28年度活動発表会では、以下の賞を決定し、表彰しました。

- ✿ ベストパフォーマンス賞・・・発表団体（1団体1票）、一般来場者（1人1票）が投票し、獲得票数が一番多かった団体を表彰。
- ✿ ベストこどもファンド賞・・・発表会でのプレゼンテーションや活動内容等、トータル的に見て、一番素晴らしかったと審査員が感じた団体へ贈る賞。こども審査員、大人審査員全員が投票を行い決定。
- ✿ ベストピカッと賞・・・・・・・考え方や発想に工夫・面白さが感じられる活動を行った団体へ贈る賞。こども審査員、大人審査員全員が投票を行い決定。

【ベストパフォーマンス賞】 おおつつ子



【ベストこどもファンド賞】 一宮家おもてなし隊



【ベストピカッと賞】 Nankai Survival Project(NSP) 実行委員会



★こども審査員からの感想発表

第5期こども審査員の皆さんに、審査員を経験してみたの感想や、応募団体のプレゼンを聞いて審査した感想などを発表してもらいました。



【大原弘靖委員】

こども審査員を3年間やらせていただきました大原弘靖です。今回はけっこう色々な考えが出て楽しく審査ができて良かったです。最初の発表の計画の段階では無かった考えが実践したところで生まれたと思うので、やっている時に生まれた考えを使って色々行動していったらいいと思います。ありがとうございました。



【松下委員】

こども審査員の松下藍花と申します。今回他の年よりもバラエティにとんだ内容が出て来ていたのでとても楽しくできました。ありがとうございました。



【森本委員】

こども審査員の森本向日葵です。一年間お疲れ様でした。やっぱり私が今日一番感じたのはみんなプレゼンが上手だなと思いました。最初に初めて応募されるグループは初めてとは思えないくらいとても上手いし、3年目のグループは1回目の参加よりもすごくとても発表が良くなっていったなと思いました。3年目のグループは来年応募できないけど、また新しい活動として参加できればしてくれたら嬉しいなと思っています。お疲れ様でした。



【田部委員】

こども審査員を3年間やらせていただきました田部祥一郎です。今回も去年に引き続き期待できる団体ばかりで、とても聞いていて楽しかったです。今回で3年目終わった団体は助成がもう無くなるけど、今後も活動を続けてほしいし、1年目2年目の団体はもっと濃い内容の活動を続けてほしいと思います。本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。



【増田委員】

こども審査員の増田光祥です。初めて審査員をやったんですけど、どのチームも工夫して発表していてすごく面白かったので、来年も参加する人はもっと面白くして下さい。



【勝田委員】

1年目の勝田祐です。今日1年目で初めてだったけど途中から慣れてきて、こういうふうに意見や質問などをたくさん表示したり、それを説明するのも難しかったけど、良い経験をしたのでまた来年もやりたいと思いました。



【青木委員】

こども審査員の青木晴楓です。今年は防災のことが多く出ていたので、これからもっと活動を続け、来年とかも助成が無くなったチームも助成があるチームも続けていってもらって、いつか来る南海トラフの地震とかに備えてもらえたら嬉しいなと思いました。ありがとうございました。



【松岡委員】

本日のプレゼンを含め1年間の活動お疲れ様でした。防災だったり地域の交流だったり、郷土愛っていうのが多分こうちこどもファンドの目的でもあるんですけど、その郷土愛をすごく感じれるものでした。高校とか大学とかになったら多分今の地元じゃない所で生活していくと思うんですけど、その時もその地域でも郷土に対する愛情っていうのを持っていけたらなって思います。お疲れ様でした。



【大原正裕委員】

審査員の大原です。まずみなさんプレゼン等一年の活動お疲れ様でした。3年審査員をやってきたんですが、それをまとめて思ったことが、みなさんのそのまとまりというか団結力がやっぱりすごいなと思ひまして、そのまとまりとか団結力があるお陰でこういう色々な様々な活動が行えたりしてきていると思うので、その団結力を活かして今後も活動を頑張ってください。僕もそういうみなさんの活動の仕方だったり工夫を学んで、自ら何かできることがあればいいなと思っております。ありがとうございました。

【審査委員長 講評】

卯月 盛夫 審査委員長（早稲田大学社会科学総合学術院教授）



みなさんも感じていらっしゃると思いますが、今日こども達のプレゼンテーション、それから審査員の交流会、さらにこども審査員の最後の感想、こどもが中心になったまちづくりの会はとても僕は心地よい時間、新鮮な気持ちでいつも聞いています。6月の公開審査会と3月の最終になります発表会、1年に2回しかお会いできないですが、大変参考になり、また楽しみにしています。市長も言われましたけれども、こうちこどもファンドは今年5年目を向かえました。今年は7グループありまして、1グループが小学生のグループ、他の6グループは中学生のグループということで、ちょっと高校生は

無かったんですけども、中学生がとても充実していたと思います。中学校のグループ6グループ中、4校くらいがほぼ防災に関することを含む内容であったということで、非常に高知の現在の特徴、課題というのを取り入れているなと思いました。

いくつか良い意味で気になった、思ったことを話します。

まず一つ目。我々まちづくりをやっている人間にとって、何とかまちづくりの輪を広げたい、我々の思いだけではなくできるだけみんなに多くの人達にそういう輪を広げたいとみんな思ってます。何かまちづくりを広げるためには口だけで言ってもダメなので、何か色んな工夫をしている訳で、そういった時にまちづくりグッズという、何か物を作ったりしている訳ですね。それだけをちょっと顕著に表れたなと思いました。潮江中は言うまでもなくカルタっていうとても重要な、段々普及し始めていますけれども、このカルタっていうのは高齢者から子どもさん、まだ未就学の子ども達だって絵で分かるっていうこともあるのでとても良いツールだと思いました。それから南海中は手ぬぐいでしたよね。手ぬぐいも結構作りますけれど、確かに防災の時にそれを持って行くっていうことも役に立つのかもしれないと思いました。それから大津中はTシャツ。Tシャツは他のグループもありましたけれど、なかなか魅力的なTシャツでした。ただ大津中でもう一つ、僕は今日初めてグッズという意味ではちょっと大きすぎますが、リヤカーというのを見せてもらいました。あれに何か色んな防災のキャッチフレーズとか何かつけながらアルミ缶の回収でまちを歩いていたとしたら、機能的にもアルミ缶回収するって良いことだし、それを中学生がやっているということや、そこに標語が書いてあることによって「へー」と感心します。僕はまちづくりのツールとしてリヤカー、まちづくりリヤカーと言ってもいいかもしれないけど、そういった物が今日大津中から提案があって実際に使われて、これからも行われるということを聞いてこれはいいなと本当に感心しました。一宮中はもちろんまたTシャツ、明るいTシャツで、これは以前言ったかもしれないけれど「Tシャツは前にキャッチフレーズを書くのではなく後ろなんです」ということがまちづくりTシャツでよく言われている話で、例えば、清掃や挨拶をしたりしても後ろから見たときに「あぁ、あのグループはこんなことをしているんだ。こういう団体なんだ。」ということが分かるっていう意味でまちづくりのTシャツも有効だと思いました。以前は、物ばかり買っていいのかっていう議論も役所の中にもあったし、我々の中にもあったんですが、いや、そんなことない、普及・啓発してみんなが知っていくためにはこういったまちづくりグッズが必要だということを思いました。ぜひお願いしたいのは、もし次年度何かを続けるとしたら具体的なまちづくりグッズをここに持って来ていただいて、みんなに披露していただきな

から普及したいと思います。ちょっとリヤカーは持って来れないかもしれないけど、写真で結構ですから是非持ってきてください。

二つ目は、久重小のところから学んだ点ですが、実は昨年6月の時は国際交流と防災っていうなんかあんまり結び付かないテーマとして僕の中にはありました。ところが今日聞いてみたら、やっぱり国際交流と防災、一見違うんだけど一つの地域でそれを進めることによって、例えば国際交流に関心のある人・防災に関心のある人、ちょっと違う興味のある人がその両方に来るかもしれないというようなことを感じました。まちづくりっていうのは、もしかすると本当にオタクの人だけ、その関心のある人だけっていう風になりがちなことを、これもグッズと同じようにより広めていくには、防災っていうちょっと固めのテーマと国際交流というちょっと違うテーマを組み合わせると相乗効果を狙っていく。そういう方法論を展開していくということで素晴らしいなと思いました。

それからベストパフォーマンス賞を取った大津中ですね。実は6月の時の申請書と今日の活動発表会の結果をちょっと見比べてみたんですが、かき氷のことや車椅子の贈呈、それからアルミ缶の回収のリヤカーについても6月の申請書には書いてないんです。書いてないからダメっていう意味ではないんです。これは先ほど大原君も言っていました、6月の時点で考えていたことを更にこの3月までの活動の中でこうしたらいいんじゃないか、もっとこうしたらいいんじゃないかと思って、きっと子ども達が議論に議論を重ねて出てきたアイデアなんじゃないかと思います。そう思うとこの6月の時点で僕らは完璧なものなんて求めてないし、ある程度の熱意、「こういうことをやりたいんだ！」ってことが期待できれば良いと僕は思っています。その通りやることも重要ですが、それ以上に続けていくってこともとても重要で、どんな子ども達のアイデアがそこに入ってきたっていうことを僕はとても評価しました。その結果、「ベストパフォーマンス賞」を取れたのではないかなと思います。

最後になりますが、実は昨日、東京の明治学院大学で、子どもとか子育てとかに関するシンポジウムがありました。僕もそこに参加して色々意見交換した時に、ある先生がこんなことを言ってくれました。とても印象的だったのでご紹介したいと思います。教育学の先生が言っていた言葉です。2つありますが、1つ目「15歳までに地域の中で様々な体験をした人は、40歳以降になってその地域に戻ってくる確立が高い。」ちょっと意味が分からないかもしれないけれど、高知で言えば、東京とか大阪とか出る人がいるかもしれませんね。だけど40歳くらいになってまた高知に戻ってこようという人達は15歳までにこの高知でやっぱり地域で良い体験をした、良い人達と知り合った人達だっている風なことを、大人に対するインタビューとかアンケートで探った結果です。もう一つ、「中学校時代にバカをした学生」バカをしたってその先生が言ったのでそのまま言いますが、中学校時代ってやっぱり勉強もするけど、友達とバカな事もしますよね。中学生多いから分かると思うけどその「バカな事」が重要だって彼は言っていたんです。中学校時代にバカみたいな事をした子ども達が、実はそれを通じて一生の友人を得ている。これは、大人になってからどういう方が一生の友人になっていますか、どのような相談相手をみなさん持っていますかという質問に対して中学校時代が自分に重要だったっていうふうに答えてくれた調査に基づく結果でした。すなわち、今日とても中学生が多いし、もちろん15歳までって言ったって小学生も含まれますので、ここに来ているみなさんのほとんどが、一度高知を出るかも分からないけれど、また戻ってきて高知で暮らすだろう、あるいは一生の友人・相談相手をこの場で知り合った人達と得るかもしれないということを昨日の先生の発表でちょっと頭に記憶に残しながら今日のみなさんの発表を聞きました。どうもみなさんご苦労さまでした。ありがとうございます。

6 高知市子どもまちづくり基金 平成 28 年度実績

こうちこどもファンドは、平成 24 年度に創設した「高知市子どもまちづくり基金」を原資に運営をしております。制度を長期に渡り、継続していくためには、少しでも多くの企業や団体、市民の方から、こうちこどもファンド制度の趣旨に対してご賛同をいただき、寄附金という形でご支援をいただくことが必要です。

未来のまちづくりを担う子どもたちを社会全体で支援し、その温かい支援や協力を子どもたちが感じながら活動していく中で、子どもたちは「夢の実現」だけではない、たくさんの学びや成長を得ることができると考えています。

平成 28 年度には、5 件の企業・団体・個人の方から 83,000 円のご寄附をいただきました。

こうちこどもファンド制度が、安定した運営をしていけるように、今後ともご支援をいただければ幸いです。

★平成 28 年度に寄附をいただいた方々

〈〈企業・団体 様〉〉

三愛石油カスタマーサービス株式会社 代表取締役 八田 聡子 様

株式会社 四国清掃工業 代表取締役 森国 勇 様

有限会社 大石電機 代表取締役 大石 典明 様

太平産業 株式会社 代表取締役 中澤 末隆 様

〈〈個人 様〉〉

久川 憲四郎 様

また、平成 27 年度から新たな取組として、募金箱の設置を行いました。領収等の発行は行わず、こどもファンドを応援して下さる方からの善意の募金という形で運営しています。1,000 円以上の募金で、こどもファンドの特製バッジを差し上げています。

平成 28 年度は、51,252 円の募金をいただき、「高知市子どもまちづくり基金」に積立させていただきました。



7 今後に向けて

「こうちこどもファンド」は、子どもたちの「自分たちのまちを良くしたい」という想いを支援する制度で、子どもたちのまちづくりへの活動実施により、こどもにやさしいまちの実現や、高知の将来を支える人材づくりを目指しています。

平成29年度は、「こうちこどもファンド」がスタートして6年目を迎えます。

毎年子どもたちの意欲的なまちづくりの提案があることを嬉しく思う一方、事務局が応募団体の確保に苦勞している現状もあります。制度のテコ入れを図っていく時期に差しかかっていると感じています。応募団体の子どもたちやサポートする大人にとって、どのようにすれば応募しやすく、活用しやすい制度になるかを中心に考えながら取り組んでいく必要があります。

一方、この制度を知らない市民の方はまだまだいます。もっと皆様に知っていただくために広報の仕方も工夫していかなくてはなりません。そのために、活動意欲がある子どもたちの声を拾い、掘り起こしをして、応募に繋げていくしくみを検討していき、もっとこの制度を周知していきたいと考えています。

子どもが申請し、審査をするのも子どもたちという「こうちこどもファンド」のしくみは、全国でも先駆的な取組で、高知市のまちづくりに興味を持つ子どもたちを増やしていくきっかけの1つになっているのではと思っています。小さいうちから、自ら住む地域のことに関心を持ち、活動していくという意識が育つことで、大人になってからも、地域活動に参加することが自然と感じる人材を増やしていけるのではないかと思います。そして、この「こうちこどもファンド」が少しでも地域活動の担い手不足という課題解決につながる手段となればと考えています。

今後とも「こうちこどもファンド」のご支援をよろしくお願いいたします。



資料編

★高知市子どもまちづくり基金条例

★高知市子どもまちづくり基金助成金交付要綱

★平成 28年度活動発表会アンケート結果

・一般来場者

・発表団体向け(対象:子ども)

・発表団体向け(対象:大人サポーター)

★「こどもファンド通信」第 18 号 (平成 28 年5月発行)

★「こどもファンド通信」第 19 号 (平成 28 年8月発行)

★「こどもファンド通信」第 20 号 (平成 28 年 11 月発行)

★「こどもファンド通信」第 21 号 (平成 29 年3月発行)

★平成 29 年度こうちこどもファンド助成事業募集チラシ

★第6期こども審査員募集チラシ

高知市子どもまちづくり基金条例

(平成 24 年 4 月 1 日条例第 23 号)

(設置)

第 1 条 子どもたちが主体となって取り組む子どもまちづくり活動を推進することにより、本市の将来を担う人材の育成を図るとともに、本市におけるまちづくり活動を活性化させるため、高知市子どもまちづくり基金（以下「基金」という。）を設置する。

(基金の積立て)

第 2 条 基金として積み立てる額は、一般会計歳入歳出予算で定める。

2 基金をより効果的に運用するため、基金の設置目的に沿う市民又は法人その他の団体の寄附金は、前項の積立額に充てることができる。

(管理)

第 3 条 基金に属する現金は、金融機関への預金その他最も確実かつ有利な方法により保管しなければならない。

2 基金に属する現金は、必要に応じ、最も確実かつ有利な有価証券に代えることができる。

(運用益金の処理)

第 4 条 基金の運用から生ずる収益（以下「運用益金」という。）は、一般会計歳入歳出予算に計上して、基金の設置目的を達成するために行う事業の経費に充てるものとする。

2 前項に定める事業の経費に充当したものを除き、運用益金は、一般会計歳入歳出予算に計上して、基金に積み立てる。

(処分)

第 5 条 市長は、基金の設置目的を達成するため必要があると認めるときは、一般会計歳入歳出予算の定めるところにより、基金の全部又は一部を処分することができる。

(繰替運用)

第 6 条 市長は、財政上必要があると認めるときは、確実な繰戻しの方法、期間及び利率を定めて、基金に属する現金を歳計現金に繰り替えて運用することができる。

(委任)

第 7 条 この条例の施行について必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

高知市子どもまちづくり基金助成金交付要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、高知市子どもまちづくり基金条例（平成24年条例第23号）第1条に規定する基金の設置目的を達成するため、高知市子どもまちづくり基金助成金（以下「助成金」という。）を交付することについて、補助金等の交付に関する条例（昭和29年条例第19号）に定めるもののほか、必要な事項を定めるものとする。

(助成対象団体)

第2条 助成金の交付の対象となる団体（以下「助成対象団体」という。）は、次に掲げる要件のすべてを満たす団体とする。

- (1) 本市に在住又は通勤若しくは通学している18歳以下の子どもが3人以上いること。
- (2) 団体の責任者及び監査として、20歳以上の大人が2人以上いること。
- (3) 活動の目的が明らかであり、当該助成に係る事業を自主的に行えるものであること。
- (4) 複数の世帯で構成される団体であること。
- (5) 過去に、同一の事業についてこの要綱に基づく助成金の交付を3回以上受けていないこと。
- (6) 団体の運営に関する規約、会則等を定めており、適切な会計処理が行われていること。

2 前項の規定にかかわらず、助成対象団体が、高知市事業等からの暴力団の排除に関する規則（平成23年規則第28号。以下「規則」という。）第4条各号のいずれかに該当すると認める場合は、助成金の交付の対象としない。

(助成対象事業)

第3条 助成金の交付の対象となる事業（以下「助成対象事業」という。）は、本市内において、子どもが主体となって取り組むまちづくり活動に係る事業とする。

2 前項の規定にかかわらず、次に掲げる活動は助成対象事業としないものとする。

- (1) 営利を目的とする活動
- (2) 宗教的又は政治的な活動
- (3) 学校の授業の一環として行う活動

(助成対象経費)

第4条 助成金の交付の対象となる経費（以下「助成対象経費」という。）は、助成対象団体が行う助成対象事業に要する経費とする。

(助成金額)

第5条 助成金額は、助成対象経費の額を限度として予算の範囲内において、市長が認める額とする。

(助成金の交付申請)

第6条 助成対象団体は、助成金の交付を受けようとするときは、助成金交付申請書（様式第1号）に、必要書類を添えて、市長に申請しなければならない。

(助成金の交付決定)

第7条 市長は、前条の申請があったときは、その内容を審査し、助成金の交付の可否を決定し、適当と認めたときは助成金交付決定通知書（様式第2号）により、適当でないとは認めるときは所定の助成金交付却下通知書により当該申請をした助成対象団体に通知するものとする。

2 市長は、助成金の交付決定に際し、必要な条件を付することができる。

(交付申請の取下げ)

第8条 前条第1項の規定により助成金の交付決定を受けた助成対象団体(以下「助成事業者」という。)は、その内容又はこれに付された条件に不服があり、交付申請を取り下げようとするときは、当該交付決定の通知を受けた日から2週間以内に、その旨を所定の助成金交付申請取下届出書により市長に届け出るものとする。

2 前項の規定による申請の取下げがあったときは、当該申請に係る助成金の交付決定はなかったものとみなす。

(変更承認等)

第9条 助成事業者は、助成金の交付決定を受けた事業(以下「助成事業」という。)について、事業内容を変更し、中止し、又は廃止しようとするときは、あらかじめ助成事業変更等承認申請書(様式第3号)により、市長に申請し、その承認を受けなければならない。

2 市長は、前項の申請があったときは、速やかにその内容を審査し、変更等の可否を決定し、所定の助成事業変更等承認(否認)通知書により当該申請をした助成事業者に通知するものとする。

(実績報告)

第10条 助成事業者は、助成事業が完了したときは、速やかに実績報告書(様式第4号)に、関係書類を添えて市長に報告しなければならない。

(助成金額の確定)

第11条 市長は、前条の報告があったときは、速やかにその内容を審査し、助成事業の成果が助成金の交付決定の内容及びこれに付した条件に適合すると認めるときは、交付すべき助成金額を確定し、助成金額確定通知書(様式第5号)により助成事業者に通知するものとする。

(助成金の交付請求及び交付)

第12条 助成事業者は、前条に規定する助成金額の確定通知を受けたときは、助成金交付請求書(様式第6号)により市長に助成金の交付を請求するものとする。

2 市長は、前項の請求があったときは、速やかにその内容を審査し、適当と認めるときは、助成金を交付するものとする。

(助成金の概算払)

第13条 市長は、助成事業について必要があると認めるときは、助成金の概算払をすることができる。

2 助成事業者は、概算払を受けようとするときは、助成金概算払請求書(様式第7号)により、市長に請求しなければならない。

(助成金の交付決定の取消し)

第14条 市長は、助成事業者が次の各号のいずれかに該当したときは、助成金の交付決定を取り消すことができる。

- (1) 偽りその他不正の手段により助成金の交付を受けたとき。
- (2) 規則第4条各号のいずれかに該当することとなったとき。
- (3) 助成金を助成事業の目的以外に使用したとき。
- (4) 助成事業の実施方法が不相当と認められるとき。
- (5) 助成事業を中止又は廃止したとき。
- (6) 前各号に掲げるもののほか、助成金の交付決定の内容又はこれに付した条件その他この要綱に基づく命令に違反したとき。

2 前項の規定は、助成事業について交付すべき助成金額の確定があった後においても適用があるものとする。

3 市長は、第1項の規定による取消しをしたときは、所定の助成金交付決定取消通知書により、助成事業者へ通知するものとする。

(助成金の返還)

第15条 市長は、前条第1項の規定に基づき助成金の交付決定を取り消した場合において、助成事業の当該取消しに係る部分に関し、既に助成金を交付しているときは、期限を定めて、その返還を命じなければならない。

2 市長は、助成事業者へ交付すべき助成金額を確定した場合において、既にその額を超える助成金を交付しているときは、期限を定めて、当該確定した助成金との差額の返還を命じなければならない。

(調査等)

第16条 市長は、助成事業の適正な執行を確保するために必要な限度において、助成事業者に対し、書類の提出若しくは報告を求め、又は必要な調査をすることができる。

(整備保管)

第17条 助成事業者は、助成事業に係る帳簿及び関係書類を整備するとともに、助成事業の完了した日の属する年度の翌年度から起算して5年間保管しなければならない。

(その他)

第18条 この要綱に定めるもののほか、助成金の交付に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

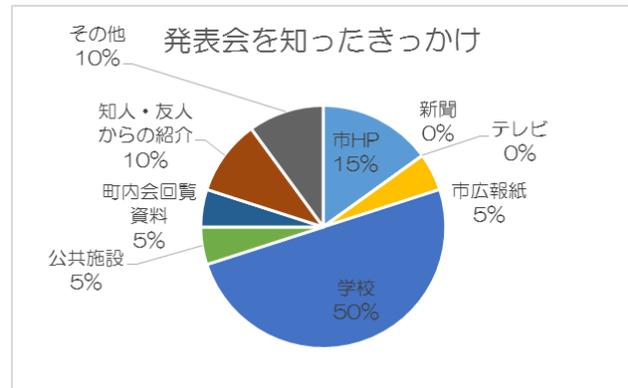
この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

平成 28 年度活動発表会 【一般来場者アンケート】

アンケート回答数：17人

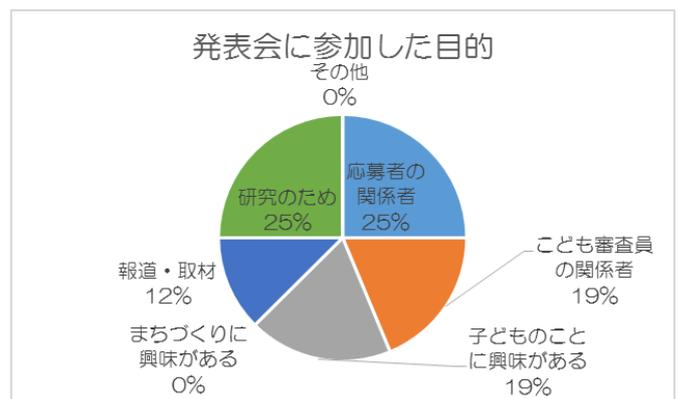
問 1 活動発表会について何で（どこで）知りましたか。（複数回答）

- 1 市ホームページ・Facebook
- 2 新聞
- 3 テレビ
- 4 市の広報誌
- 5 学校
- 6 公共施設
- 7 町内会の回覧資料
- 8 知人・友人からの紹介
- 9 その他



問 2 活動発表会に来た目的は何ですか。（複数回答）

- 1 応募した子どもの関係者であるため
- 2 こども審査員の関係者であるため
- 3 子どもに興味があるため
- 4 まちづくりに興味があるため
- 5 報道・取材のため
- 6 研究のため
- 7 その他



問 3 活動発表会についてどのような印象を持ちましたか。

- 先生方の指導の元で生徒も主体性を持ち活動を続けているのが良いと感じました。継続しているチームもあり、1年間で終わらせず、世代を繋いで必要性の高い活動を次世代を担う子供達が行えるように支援しているこどもファンドは素晴らしいと思います。
- こどもたちがとても意欲的に活動に取り組んでいることに感動しました。やはり中学生はプレゼンも工夫されており上手で私も勉強になりました。
- 3分での発表はちょっと短すぎると感じました。質問もしにくかったのでは……。内容はどれも素晴らしかったです。
- こどもファンドの活動を通して、地域の人達が元気になっていくんだなぁと感じました。日々の忙しい学校生活の中で、時間を見つけて色々な事を考え、実行できている事に感動しました。
- 助成を受けた子供達の発表だけでなく、助成を受けた団体同士、審査員同士の交流が来年以降の活動に繋がっていくなと感じました。

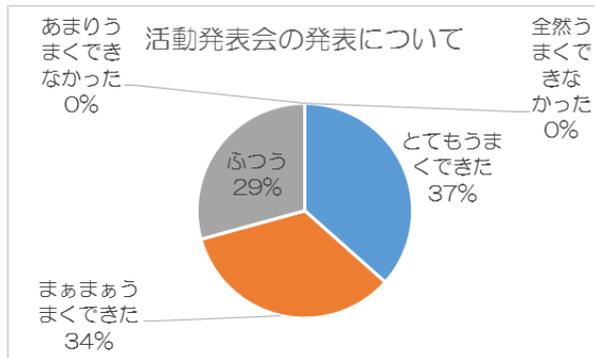
問4 何か改善したほうがいいと思うことはありましたか。

- 各チームの意見・質問を書く付箋を一般参加者にも数枚ずつ配ってもらえるとより意見が書きやすかったと思います。全ての発表が終わってから入口の付箋に気づいたので覚えている所のみしか書けず、少し残念でした。
- 発表をもう少し長くして、質問や感想をその場で話してもらう方がいいようにも思います。すぐに答えられないものもあると思いますが……。質問しきれなかった内容は付箋等を書いて……。というのでもいいのでは？と思いました。
- 活動報告書は子供達が手書きで作成した方が子供のためになると思う。
- 「交流タイム」の盛り上がりは今ひとつ。結局質疑応答ならば10分の発表、質疑応答がよいと思う。
- プレゼンの文字が見えず残念だった。
- 時間がとても長いので付箋は一旦休憩になってからまとめて貼るなど、時間短縮できるところはした方がよいと思った。
- ファンド自体の認知度が低い。過去の活動のフィードバックなど今回から参加しても分かるものがあると良い。こどもファンドでの良い提案、意見は他の取り組みにも応用できると思います。

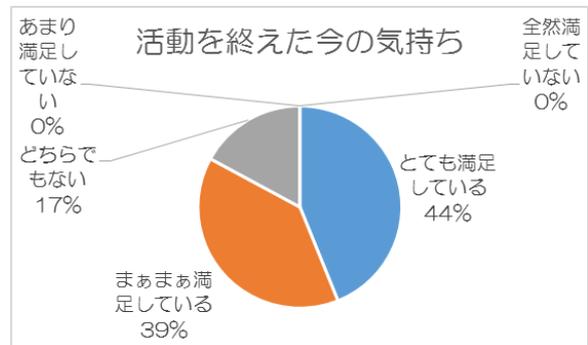
平成 28 年度活動発表会 【発表団体向けアンケート（対象：子ども）】

アンケート回答数：41人

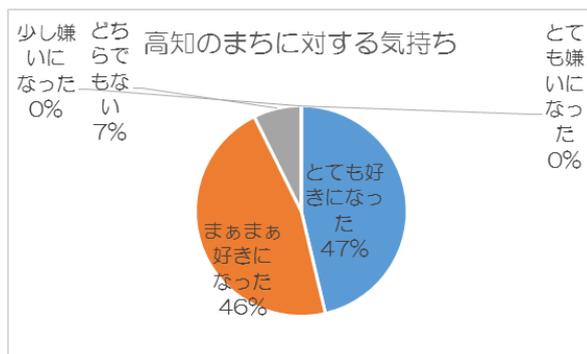
問 1 発表はうまくできましたか。



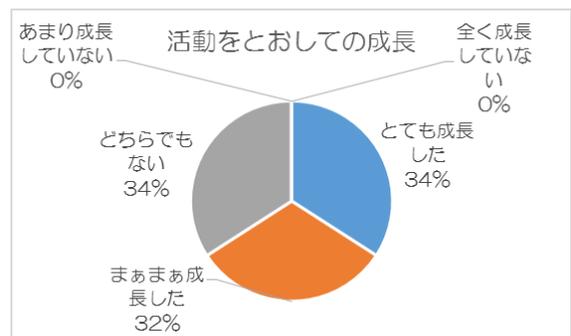
問 2 活動を終えた今の気持ちにあてはまるものは。



問 3 高知のまちに対する気持ちは変わりましたか。



問 4 活動をとおして成長したと感じますか。



問 5 問 4 で「とても成長した」「まあまあ成長した」と答えた人に対する質問 具体的に成長したと感じるのはどういったところですか。

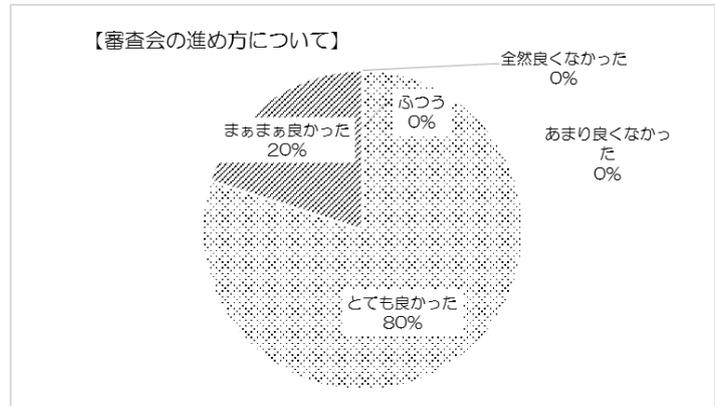
- 人前に出て発表をするといったことできないほど内気な性格でしたが、これまでの自分を変えていこうと活動に参加し、発表をするまでに至ったことが、今の自分が成長できたと実感しました。
- 質問に対しての受け答えなどセリフのないものをその場で答えるということ。
- 地域の人たちと関わる機会が増えたことで、自分は大人や知らない人と話すのが苦手だったけど、話せるようになった。
- 高知の街を良くしようという気持ちが育ったこと
- 地域の人達と繋がりなどが深まった
- 地域の人と触れ合える楽しさを実感した
- 地域の中でも小学校や施設に目を向けたらいいことに気付くことができたので成長を実感した。
- 新たに地域とのつながりを深めていこうと思う気持ちが強くなった
- 団体を活動したことで話し合いなどや協力する力がついた
- 色々な報告をしあって少しの人が知ったことでまた新しい取り組みが出来る

平成 28 年度活動審査会【発表団体向けアンケート(対象:大人サポーター)】

アンケート回答数：5人

問 1 子どもたちの発表はどうでしたか。

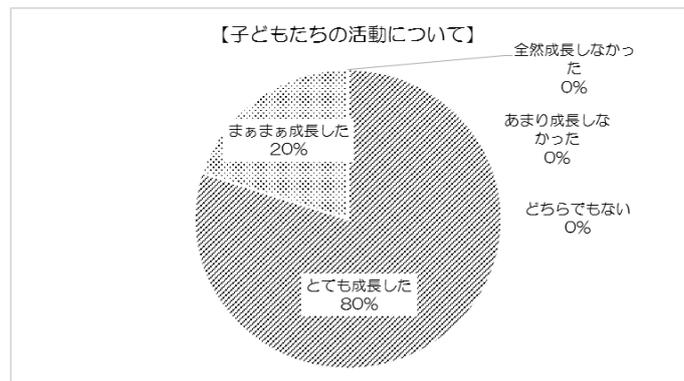
- 1 とても良かった
- 2 まあまあ良かった
- 3 どちらでもない
- 4 あまり良くなかった
- 5 全然良くなかった



- すべての団体が工夫され、堂々としており、すばらしかった
- それぞれのチームが活動内容をよくまとめられており、わかりやすかった

問 2 今回の活動をとおして子どもたちが成長したと感じますか。

- 1 とても成長した
- 2 まあまあ成長した
- 3 どちらでもない
- 4 あまり成長しなかった
- 5 全然成長しなかった



- 地域の皆さん育てていただいている。郷土愛も育ててきたと実感している
- 自分たちで考えてさまざまなことに取り組めるようになり「人の役に立つ」という視点を持ち始めた
- いろいろな経験をし、成長していったと思う
- 地域での活動に自信が出てきた
- 新聞をつくる際、内容をわかりやすくコンパクトにまとめなくてはならず、伝え方やまとめ方が上達した。

問 3 こうちこどもファンドの制度についてご自由にご意見をお聞かせください。

- 継続して行ってほしい
- 学校や子どもだけでは、どうしてもお金というハードルがあり、活動が制限される。この制度のおかげでたくさんの活動ができるようになりました。
- いろんな経験ができ、いろんな活動を知ることができて勉強できるいい制度だと思う。
- 今後も学校として協力していきたい

【発行】

高知市 市民協働部 地域コミュニティ推進課

〒780-8571 高知市鷹匠町2丁目1-43

TEL/088-823-9080

FAX/088-824-9794

<平成29年6月発行>